

桑野造船株式会社

〒520-0243 大津市堅田 1-21-2 TEL:077-573-8001 FAX:077-573-8002

URL: <http://www.k-boat.co.jp> E-mail: kuwano@k-boat.co.jp

国体が終わりました。造船所の立場からみて過去の国体と比較して、大きく変わったことは全艇が中国での生産艇であったことです。この是非はともかく選手皆さんの漕いだ感想をお聞かせ下さい。艇の冷静な評価とともに今後も規格艇をどのような位置づけにするべきかの議論が大切になってきました。規格艇はその目的からトレーニング用でもなく、トップレース艇でもありません。海外有名ブランド艇への圧倒的な信仰のなか、国内メーカーは規格艇生産はもとより今後なにをターゲットにするべきか。国内メーカー存在の意義は・・・。そして選手にとって艇の選択とは・・・。このことを皆さんと共に真剣に考えたいのです。

桑野造船 会社目標

未来に向かって進化

- お客様にとってなくてはならない桑野になるために -

* ヨーロッパ艇を超える(工夫と行動)

* 感性を豊かに(新感覚と楽しさ)

* 徹底したサービス(感謝と早さ)

船型から見た抵抗とバランスについて

ボートに対する水の抵抗の内、約85%を占めるのがハル表面との摩擦抵抗です。この抵抗は水に接している部分の面積(濡れ面積)に比例し、理論的には排水量が同じであれば完全な半円形断面の船型が最も濡れ面積=摩擦抵抗が小さくなります。ボートは一般の船に比べると艇の幅に対して重心位置が高く、水平から横方向に傾いたときにはさらにバランスが崩れる方向にモーメントが働きます。このモーメントはボートの断面形状と(クルーを含めた)重心位置に影響されますが、大まかに言って横幅が広く、重心位置が低いボートほど横方向のバランスは良くなります。規格艇やエンパハ艇はこの点を意識しています。

以上2点は相反する要素でもあるため、実際には完全な半円形断面の船型を持つボートはバランスの問題が大きくあまり使用されていませんが、FISA型などレーシングボートの船型は漕手の技術でバランスを取ることが可能な限界近くまで濡れ面積を減少させた船型となっています。もちろんいかに艇バランスに反応するかの漕手の技術もかなり大きな要素となります。

中国より世界の造船所事情



今年の7月・8月と弊社と委託(OEM)生産契約を結んでいる中国はWUDI社に出張してきました。新工場が稼働し始めてから半年弱が過ぎましたが、生産量は加速するように増えているようです。

ここ1年間の生産量は1,500艇程で今後は2,000艇の計画とか・・・これは世界の平均的造船所の裕に10倍の規模です。現地にて性能の確認を行いました。品質も常に向上してきており、いよいよ中国製というだけでは判断できません。以前にも案内しておりましたが、世界のメーカーも中国での委託生産を始めており、今回も英国・北米向けの生産艇が数多く現場にありました。有名メーカーのエンパハ社も9月にWUDI社での本格生産へ向けて

話し合いを進めだしたようです。

このような委託生産が多いのですが一方では、自社ブランドの開発もおこたってはいません。次世代を担うプリプレグを使用した艇の製造へ向けて準備を進めていました。航空機生産で進んでいるアメリカのプリプレグ会社の従業員数名と業務契約を結び、生産設備も中国に移して作業が始まっていました。先回訪問時は船型を製作中であり、試作艇は10月末頃に完成予定と聞いていたのですが、9月末に出来上がったようです。この艇には、アテネオリンピックでも話題になった水没防止・排水対策が工夫されており、世界からの情報に対応するスピードも中国経済の成長そのものかもしれません。一般工業品と同じく、ボート製造にあたっては先端を走りだそうとしています。ボート製造業界で言えば世界一の生産国といっても間違いではありません。この状況からも分かるように、艇の使用や購入にあたってはブランドではなくどんな性能艇かを確認した上で、使用目的にあった艇を選択することが、益々重要になってきます。(注)プリプレグ:炭素繊維等に予めマトリックス樹脂を加工した高級FRP材料で釣り竿や航空機生産に使用されている。飛躍的な高剛性・軽量化が期待できる。



お知らせ

艇の購入のご計画もあるかと思えます。桑野ではレンタル艇や新古艇を廉価で販売しています。詳しくは、ホームページ参照ください。また、国内初のウイングリガーのアテネ艇(2x) A1モデルの生産、1人乗りのコーチングカタマラン、小径オールの本格生産、一般向けのレクリエーション・ローイング艇も始めました。



BOAT TIMESの配信停止をご希望される方は、お手数ですがFAX (077-573-8002)又はE-Mail (kuwano@k-boat.co.jp)で当社までご連絡下さい。また、ご意見・ご感想などもお待ちしております。

お手数ですがボート関係者へお渡しをお願いいたします。